

会 議 録

1 会議名

令和2年度 第8回和田区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

（1）令和3年度 地域活動支援事業の募集要項及び審査・採択のルールについて
（公開）

（2）和田区の地域課題について（公開）

3 開催日時

令和3年2月2日（火） 午後6時30分から午後8時00分まで

4 開催場所

ラーバンセンター 第4研修室

5 傍聴人の数

なし

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員：有坂正一（会長）、草間雄一、佐藤勝雄、佐藤 力、篠原精子、清水雅浩
平原留美、宮崎雅彦（副会長）山岸優子、横田英昭（欠席4人）

・事務局：南部まちづくりセンター 堀川センター長、小池係長、田中主任

8 発言の内容

【小池係長】

・現在、植木委員、片田委員、金子委員、清水委員、高橋委員、平原委員を除く8人の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告。

・同条例第8条第1項の規定により、議長は会長が務めることを報告。

【有坂会長】

・会議の開会を宣言

・会議録の確認：清水委員に到着時に依頼

次第2「議題等の確認」について、事務局に説明を求める。

【堀川センター長】

- ・配布資料の確認
- ・次第に基づき、審議事項の確認

(平原委員到着)

【有坂会長】

事務局の説明について質疑等を求めるがなし。

一次第3議題(1) 令和3年度 地域活動支援事業の募集要項及び審査・採択のルールについて—

【有坂会長】

次第3議題(1)「令和3年度 地域活動支援事業の募集要項及び審査・採択のルールについて」に入る。前回の会議では、募集要項や審査・採択のルールについて項目ごとに協議した。本日はその結果を確認し、最終案としたい。前回の意見を反映した資料について、事務局より説明を求める。

【堀川センター長】

- ・資料No.1～3、参考資料No.1～3に基づき説明

【有坂会長】

事務局の説明に質問のある委員の発言を求めるがなし。

資料No.1から資料ごとに意見を求め、令和3年度の内容を決定していくことで進めてよいかを諮り、委員の了承を得る。

まず資料No.1「上越市地域活動支援事業 令和3年度実施分 募集要項(案)」について、資料の赤字部分に変更箇所である。前回の会議で、「私たちの地域」を「私たちの和田区」に変更し、「まちづくり活動」の文言を他の文言に変更してはどうかとの意見が出たが、その文言は決まっていない。何か他によい文言があれば、変更することも可能である。次に2ページ目の採択方針の優先採択事業について、募集要項に記載されているものしか対象にならないと判断している委員もいたよ

うである。類似するものであれば構わないということで、それぞれの事業の後にすべて「等」の文言を追加し、幅広く提案してもらえるようにしたいと考えている。

資料No.1 について意見のある委員の発言を求めるがなし。

令和3年度の募集要項を資料No.1 のとおりとしてよいかを諮り、委員の了承を得る。

次に、資料No.2 「令和3年度 和田区地域活動支援事業 審査・採択の基本的なルールについて（案）」は、前回の会議で一番議論をしたところだと思う。今回示した資料No.2 では、「平均点が25点満点の半分である12.5点に達しない事業については不採択とする」ことを、基本的なルールに加えてはどうかという案である。先ほど事務局から説明があった他区の例で参考になるものがいくつかあったと思う。そういったことも含めて、資料No.2 について意見のある委員の発言を求める。

(清水委員到着)

【宮崎副会長】

前回の会議で、点数によって評価するようなルールを作ってはどうかとの意見があった。先日、正副会長で協議し、参考資料No.2 の金谷区のルールと同様に、「2. 採択の基本的なルール（1）採択事業と補助金額の検討」に「② 共通審査の得点が満点の半数に満たない事業は、不採択とする」を追加した。今後どのような提案があるか分からないため、その他については現行どおりに行うこととし、4月以降に提案の様子を見て、また検討していけばよいかと考えている。追加したルール等について、他の委員からも意見を聞きたいと思う。

【有坂会長】

資料No.2 について意見のある委員の発言を求めるがなし。

令和3年度の審査・採択の基本的なルールについて、資料No.2 のとおりとしてよいかを諮り、委員の了承を得る。

次に資料No.3 「地域活動支援事業 審査・採点シート（案）」については、前回の会議では特に変更についての意見はなかった。

資料No.3 について意見のある委員の発言を求めるがなし。

令和3年度の審査・採点シートを資料No.3 のとおりとしてよいかを諮り、委員の了承を得る。

以上で次第3議題(1)「令和3年度地域活動支援事業の募集要項及び審査・採択のルールについて」を終了する。

一次第3議題(2) 和田区の地域課題について一

【有坂会長】

次第3議題(2)「和田区の地域課題について」に入る。和田区地域協議会で取り組みたい地域課題について委員より意見を求めた結果を資料No.4 にまとめたので、意見を出した委員に説明を求めたいと思う。本日は金子委員が欠席であるため、草間委員より順に説明を求める。

【草間委員】

和田区を盛り上げることを考えて意見を出した。テーマとして挙げた「観光」「農業」「防災」「安全」「地域住民の連帯」を基本に考えたときに、やはり上越妙高駅周辺の活性化と地域づくりといったことが課題となると思う。新幹線の「かがやき」が停まるような駅になればと考えている。しかし、開通当初に県知事が「かがやき」を停車させるために国に大分お願いしたが停まらなかった以上、余程のことがない限り停車することはないと思っている。利用人数が長野駅や軽井沢駅のほうが多いという現実もあり、県庁所在地でもない限り「かがやき」は停まらないと思う。そういった中でも、他の地域から人が来て上越妙高駅で降りてもらふことを考えると、空き家等を利用した民泊や空いている畑や田んぼを観光農地としてもよいと思う。新幹線で上越妙高駅に来て、民泊のように安く自炊をしながら泊まるなど、何かできないかと思っている。風呂は歩いていけば近くにある。ただ、考えることは楽だが、実行することはなかなか難しい。土地や空き家を管理する能力があればよいが余程でなければ難しいため、行政と一体となってそういったことができればと考えている。次に「地域住民の連帯意識の向上」

についても同じようなことである。イベント等の反省として、昨年「みんなの冬のカーニバル」があったが、なぜ今年度はその団体が継続して2回目を開催することができなかつたのか考えてみることも大事なことはないかと思う。当時、企業等をお願いして資金を集めたはずだが、どの程度使用したのか。またその資金が残っているはずだと思うが、そういった資金はどう活用するかが分からない。我々の問題ではないと思うが、同じようなイベントを地域協議会として、また取り組むことができるかどうか知りたい。次に「安心して住めるまちづくり」として、できれば通学路や観光地としての歩道の整備を進めていきたい。稲荷町内会でも歩道を作ってほしいと要望しているが、余程でなければ市は土地を購入して歩道を作ることはしてくれない。和田小学校の歩道については、ほ場整備をした際に土地を確保しておき5か年計画で歩道を作ることになったので、この5年間で下箱井から寺町の間歩道は完成すると思うが、そういったことが稲荷でもできないかと思っている。また、上越妙高駅の周辺で歩道のないところもまだ結構ある。そういったところの整備も進められればと思っている。

【篠原委員】

今までは自分の家の周辺のことしか見ておらず、あまり和田区というものを考えたことがなかった気がする。他の町内はどのようにしているのか分かれば、また交流が広がるのではないかと思っている。特にこれといった案もないが、意見として挙げた。

【清水委員】

自分は見守り支援について意見を挙げた。和田区内でも近年、高齢者のひとり暮らし世帯が非常に増えてきている。自分は新聞配達をしており、この数年で3軒ほどポストに新聞が溜まっていたためおかしいと思ったら、やはり家の中で倒れていたという事例があった。そのお宅は新聞を取っていたため発見することができたが、そうでないお宅もある。最近は各業界でいろいろな高齢者の見守り活動的なことをしているが、料金が発生する。そのため、助成金等があれば、新聞を取っていない世帯でも早期発見に繋がるのではないかと考えた。次に防犯については、以前片田委員が発言していたように、防犯カメラ等が取り付けがあれば

多少の防犯効果にも繋がると思う。また、最近の小・中学生の通学時に不審者等が出たとの話も聞くため、防犯効果や事故防止にも繋がるのではないかと考えている。

【平原委員】

1点目は地域活動支援事業についてである。地域活動支援事業をどのくらいの人たちが知っているのかということがまずあった。自分も地域協議会に参加してみて、地域協議会とは何なのか、他の会と何が違うのか、町内会等と何が違うのか、体育協会と何が違うのか。また、今年度子ども会の会長をしたが、子ども会と何が違うのかと考えた。同じことがテーマになっていてもよいと思うが、地域協議会でできることは何か、そういったことが絞られて地域協議会で取り組めるような課題を見つけていければよいと考え、地域活動支援事業をテーマとしてあげた。また、人や金や物など、課題解決に対して必要なものは限られてくると思う。取り組む際に何が必要なのかを事前に協議し、地域協議会で何ができるのかを考えていければよいと思っている。

2点目は、地域コミュニティの醸成についてである。若い核家族や地域外から転入してくる家族等、新しい人が増えている中で、どうやってコミュニティに入っていけばよいかわからないとの意見を時々耳にすることがある。親世代と一緒に生活している人たちは情報も入ってくると思うが、なかなかそういった情報が入らない方たちもいる。世代間の交流がなかったり、町内会のいろいろな行事が、今年は新型コロナウイルス感染症の影響でできなかったと思う。いろいろな交流の場が考えられると思うが、いろいろな人の意見を聞く機会があるといいと思う。そういう機会を地域協議会で設けることは難しいかもしれないが、イベントだけではなく、そういった交流や話を聞く機会を設けるのもいいと思った。

【横田委員】

安全・安心をテーマに災害時の避難経路の現状把握について意見を挙げた。例えば新型コロナウイルス感染症や夏の大雨など、住民には災害に関して不安が広がっていると思う。各世帯を回らせてもらう機会があるが、呼び鈴を押してもいつも出てこない家もあれば、最近おかしな電話もあるため留守番電話になっている

る家も多い。そういう中でどうコミュニティができていくのか疑問に思っている。もう20年ほど前、7.11水害だったかと思うが、被害が大きかった新井方面の被災した人を訪ねたところ、避難していたのが当時松下電器の体育館だった。私が訪ねたのは町内会館のすぐ側にある家だったが、本当に大変な水害になると町内会館のような場所では無理だと思った。また、その4、5年後に三条市の五十嵐川でも水害があり、そこでも自宅の2階に避難したという人がいた。自分の背より高いところまで水がついたというので見せてもらったところ、墓地の墓石が全部倒れるぐらい大変な被害だということを見て感じた。一昨年、西田中町内会でも、堤防が切れて非常に怖いと感じた。町内会館なども避難所としては考えられるが、最終的には避難所として一番頑丈そうなところというよりはやはり学校ではないかと思う。ただ、実際に学校に避難すると言っても、途中の道路で用水が溢れている状況も考えられる。避難の指示があっても、自分の判断で動かざるを得ないのかと思う。また、通学路は照明がきちんとついているが、集落と集落の継ぎ目については難しいところがあると感じている。そういった点検みたいなものも必要ではないか。あそこは雨が降ると水がつくといったことがわかるようになっていけば、そこを避けて避難できると思い、意見を挙げた。

【有坂会長】

今各委員から説明があった内容も含めて、資料No.4の内容について意見のある委員の発言を求める。和田区地域協議会として自主的に話し合うべきテーマをこの中から絞り込むか、あるいはこれ以外にも提案があれば、それも含めてテーマを決めていきたい。

【宮崎副会長】

資料No.4の参考資料として10月15日に班ごとに分かれて意見交換した内容にもかなり多くの項目が書かれている。この項目の中からどれを選ぶのか、また幾つぐらいにすればいいのかが分からず、少し選びづらいと思った。まず、最終的にどういうことを目標地点にするのか、だいたい決めておいたほうが協議しやすいと思った。事務局に質問だが、今まで他の区や和田区で審議してきたテーマや、地域課題をどうやって選んだかなど事例があれば教えて欲しい。

【小池係長】

- ・資料「(参考) 自主的審議事項の事例」を配布して説明

【有坂会長】

ただ今説明があった事例も含めて、これから和田区としてどう取り組んでいか話を進めていきたいと思う。先ほど宮崎副会長から意見があった資料No.4の参考資料については、10月に2班に分かれて協議した内容をまとめたものである。そのため、今回議論の対象になるのは資料No.4のみである。先ほど横田委員から最近問題になっている水害について意見があった。水害の時に避難所へ行こうとするのはいいが、途中で水が溢れたり、それこそ夜だと街灯がなくて歩けないといった問題があちこちで見られる。地域協議会のテーマとして、そういった和田区の危険な箇所をワークショップのような形で拾い出して地図を作り、それを各町内に配布するというのも一つの課題として挙げられるのではないかと思う。また、清水委員から説明があった高齢者のひとり暮らしの問題もそうだが、今は個人情報云々ということで、かなりシビアな時代ではある。しかし、そういったものもマップの中に書き込み皆さんで共有し、この家はどんな人がいるのかなど、そういったことを知ることができれば、いざというときに安全上いいのではないかと思う。これは私の一つの意見として出した。

ほかに意見のある委員の発言を求める。

【宮崎副会長】

今の会長の意見はすごくいいことだと思うが、実際に地域協議会の中で誰がやるのか。そういったマップ作りはどこから費用が出るか疑問である。金子委員が地域課題として意見に出しているように、和田区には他にはない上越妙高駅という素晴らしい施設がある。実際にその施設の現状はどうで、今はコロナ禍なのでなかなか活動はできないが、もう少しこうしたらいいのではないかとか、それをいろんな方から意見を聞いてもっとうこうして欲しいとか、そういう意見を聞くのも一つの方法かと思う。実際に、地域協議会の中でいろいろな人の意見を聞き、自分たちでできないことを他の人にやってもらったり、市に要望するというのもいいと思う。今日は委員も全員揃っていないので、その辺は今日もし決まらな

ければ、また次回でもいいと思う。

【平原委員】

資料No.4を見て、また今日改めて委員の皆さんの意見を聞いて、それぞれのテーマ・分野について皆さんが課題と認識しているのだと感じた。改めて、地域協議会でテーマをいくつかピックアップして、その中から絞っていき自主的審議事項を決めてはどうか。

【有坂会長】

テーマを絞るにしても本日は6割ほどの出席率なので、意見として聞いておく。改めてもう少し出席委員の多い時に考えていきたいと思う。もっと取り上げたらいいのではないかという意見を出してほしい。

【宮崎副会長】

平原委員はどういうテーマがいいと思うか。自分の挙げた地域活動支援事業と、地域コミュニティの醸成か。

【草間委員】

見守り支援に関しては、町内単位でひとり暮らし世帯等に関するマップを作る場合に指導をして欲しいと要請をすれば、社会福祉協議会から指導に来てもらえるシステムがあるはずである。和田区全体ではなく町内単位になるかと思うが、そういった支援はある。また、和田地区公民館では高齢者を対象としたサロンも行っている。稲荷町内からも数人が参加している。マップ作りに関しては、大体私の頭の中に入っていたので作る気はなかったが、結局個人情報全部集めてこなければならない。

【有坂会長】

例えば、社会福祉協議会なり市の方から、ひとり暮らしの世帯等のマップを作るという依頼があればということか。

【草間委員】

どう作ったらいいかを相談すると向こうから来て助言してくれるというシステムである。

【有坂会長】

それは1町内会だけの話ということか。

【草間委員】

そうである。

【宮崎副会長】

平原委員からは地域活動支援事業や地域コミュニティについて、金子委員からは上越妙高駅の周辺の今後について、草間委員からは観光や農業、地域住民の連帯等について、このほかにも見守り支援や防犯、安全について意見が出されている。大きく分けると4つか5つほどに分かれると思うので、それを少し正副会長と事務局でまとめて、また次回にお示しするのでどうか。それとも、これをぜひやって欲しいというテーマがあれば、それをやってもらえばいい。そうしないとなかなか時間が過ぎていくだけで決まらないと思う。また、最終的にどうしたいのかが決まらずにただ話し合っただけで終わったではよくないと思う。何か形に残した方がいいと思う。それは大変かもしれないし、それによって苦勞する人もいるかもしれないがどうか。

【有坂会長】

最終的には何か形になるものにするべきだとは思いますが、今出ている意見の中で具体的にどういうことをしたいというのはまだ出ていない。宮崎副会長が言ったように大きく分けて4項目あるので、それをまたまとめることしかこの段階ではできないと思っている。例えば具体的に、地域活動支援事業についてこういうことを取り組んではどうかといった意見があればそれも参考にしていきたいと思う。

【佐藤 力委員】

確認だが、地域課題への取組みは和田区地域協議会単独でこなすのか。先ほど事例として説明があった高田区地域協議会の自主的審議事項「稲田橋付近の河川敷の土砂の撤去について」や「高田区における『内水ハザードマップ』作成及び住民への周知について」は、市への意見書等提出ということである。和田区の地域課題にしても、他の団体や専門家などに協力やお願いしなくてはいけないことが結構あると思う。そういう形で市への意見書提出でもいいのかと思う。高田区の場合は、どういう流れで市への意見書となったのか知りたい。

【堀川センター長】

まず「稲田橋付近の河川敷の土砂の撤去について」の件を具体的に説明すると、ある委員の家の近くに稲田橋がある。過去の台風による増水で、関川の中州と稲田橋の河川敷に堆積した土砂が、令和2年度になってもまだそのままになっていることを心配して、地域協議会で検討してほしいという提案があった。関川は国が管轄しており、市でできる話ではない。ただ、市から国に引き続ききちんと取り除くように要請してほしい。働きかけてほしいということ、地域協議会の総意として市に上げることによって、国も動いてくれるのではないかとということで議題に上った。

また、次の「高田区における『内水ハザードマップ』作成及び住民への周知について」も、委員の自宅近くにおいて、川に水がはけずに用水等に水が溜まり、そこが増水をして水がつくということ踏まえて課題としている。市としても水がはけるよう工事を行っているが、内水面に関するハザードマップはまた別物だと捉え、そういうものを早く市が作成して住民に周知すれば安全・安心に繋がり、避難の目安となると考えて提案された。協議の結果、内水ハザードマップを早く作成してほしいという旨を意見書としてまとめた。あくまでも住民目線で、地域においてこういったことが問題になっているから解決したい。そのために自分たちでできることは何かということを考え、自分たちでできないことは市にお願いするという流れが自主的審議である。

【佐藤 力委員】

意見書は誰が作成しているのか。

【堀川センター長】

地域協議会で文案を考えて提出する。

【有坂会長】

大体大筋の話が出れば、それを最終的には事務局でまとめてもらうことになると思う。和田区地域協議会でこういうことをしたいということ、をまず決めていかななくてはいけない。今出された提案の中から選んでいくか、それとも新たに意見があり、そちらに取り組みたいということであればそちらへ向かっていくことに

なるかと思う。

【平原委員】

自分の中で取り組みたいことを2つ挙げたが、これはあくまでも取り組みたいこととして提案したものである。地域協議会の中でこのテーマと決まれば、その中に私が取り組んだらいいのではないかとということもいくつかあるので、地域協議会として何が課題で、どのように解決するかということは決められるのではないかと思う。いくつか分野が決まっていて、地域の活性化や安全・安心な暮らし、インフラの整備などそういった大きな括りが幾つかある中で、何を課題解決として取り組んでいくかということは決められるのではないか。その中で何をやっていくかはそれぞれまた意見があると思う。

【有坂会長】

大きな分野の中でこういうことをやりたいと決めていくよりも、もう少し細かく的を絞ってやった方が話としてまとまるのではないか。この和田区で一昨年、みんなの冬のカーニバルというイベントを開催したのは、要するに雪を利用してもっと地域を活性化したらどうかというポイントで動いた経緯があったと思う。したがってあまり大きな分野で話をしてもなかなかポイントが掴めないのではないかと思う。

【平原委員】

そのイベントは、おそらく地域の賑わいづくりがテーマだったと思うが、雪のイベントをすることが地域課題の解決になったかどうか検証はあったのか。

【有坂会長】

なかった。新型コロナウイルス感染症の関係もあり、最終的にはいわゆる決算報告のような報告は一切なかったと思う。ただ、聞いた話では、各町内会だったか一部の人にはそういった資料を出したという話も聞いている。私自身は実際に見たことがないので、どうなったか分からない。

【平原委員】

決算といった話ではない。雪に親しむイベントで、私が記憶する限り大変苦労されたイベントだったと思う。夕方のイベントは大雪警報が出たので、途中で中

止にしたかと思う。雪が降ると途中で中止にならざるを得なかった。活性化をするのがテーマだったと思うが、そのテーマに向かって何をするかということを決めた方がいいのではないか。もしかしたら考え方が逆なのか。

【佐藤勝雄委員】

先ほど有坂会長からも発言があったが、資料No.4にテーマがいろいろと挙がっている。この中から、正副会長である程度決めてもらい、それに基づいて皆さんの意見を集約した方がスムーズに行くのではないか。

また、話を戻してしまうが、資料No.1の見出しにある「まちづくり活動」はすごく抽象的で範囲が広すぎるので、皆さんの意見を聞いて変えたほうがいいと思う。今の協議でも地域の親睦、安全・安心といったテーマが意見として出ていたので、そういうことを入れた方がいいのではないか。とにかく「まちづくり活動」では漠然としすぎている。

【宮崎副会長】

それについては先ほど決まったことなので、今すぐ代わりの文言が出てこないのであれば、これから1年間考えていけばよいのではないか。令和3年度はこれでよいかと思う。

【有坂会長】

どういう文言がいいかは先ほども尋ねたと思う。その時に何か意見が出ればよかったが出なかった。今ここで、もしこの文言がいいという意見があれば変更するのもやぶさかではない。

【佐藤勝雄委員】

「地域の親睦、安心・安全活動」でどうか。

【宮崎副会長】

活性化も必要なので、やはり全体を含めて「まちづくり活動」がいいのではないか。

【佐藤勝雄委員】

「まちをつくる」という意味がよく分からない。

【宮崎副会長】

それはここで議論しても長くなってしまふ。「まちづくり」の定義は大きく言えば、安全・安心や活性化も全部含まれると思う。佐藤委員の意見は少し限定的であり、活性化といったことも含んでいない。

【佐藤勝雄委員】

承知した。1年かけてこれから考えていく。

【有坂会長】

では、佐藤勝雄委員からもこの地域課題のテーマに関して意見が出されたが、もう少し皆さんの意見を聞いて、その中から正副会長で協議しテーマを絞るということになればその方向で進んでいきたいと思う。皆さんからももう少し具体的な意見なり、たくさんの意見を出してもらわないと我々としても、どういう方向に持っていけばよいか絞り込めない。できるだけたくさんの意見をお願いしたい。

【宮崎副会長】

次回の会議が3月中旬かと思うので、2月中に皆さんから事務局の方に意見を出してもらい、それをもとに正副会長と事務局で選ばせてもらうのでどうか。

【有坂会長】

ここではなかなか意見を出すのが難しいかもしれないので、文書で出してもらうという意見である。

【横田委員】

高齢者の見守り支援は非常に素晴らしいことだと思うが、自分の町内で隣組の班長を決めようとして「高齢者世帯を外したほうがよいのではないか」と提案した際に「人の家のことは言わなくていい」と言われたことがあった。市や地域で信頼のある人は、そういった見守り支援に関する活動ができるかもしれないが、私のような人間がそういうことに関わることを嫌がる人もいるのではないかと思った。また、知り合いの高齢者が亡くなったという電話を知人にした時も「そういう話はしないほうがいい」とたしなめられたこともあった。世の中の流れや雰囲気的に、民生委員やそういった立場の人が関わるのはいいかもしれないが、少し難しい話だと思った。

【佐藤勝雄委員】

先ほど草間委員からも話があったが、市から町内会長に、ひとり暮らし高齢者世帯や要支援世帯等について調べて連絡してほしいとの話もある。今回の大雪でも空き家等の雪害や、ひとり暮らし高齢者世帯の雪下ろし等々が問題になっていたが、そういうことで市も分かっているし、町内会ももちろん把握している。民生委員も多分、月1回は動いていると思う。昔ながらに向こう3軒両隣に気を遣ってれば、大きな事故には繋がらないと思う。

【有坂会長】

ほかに意見のある委員の発言を求めるがなし。

今ここで意見がない委員も、また改めて意見があれば2月末までに事務局へ意見を出してほしい。今日出た意見とこれから出てくる意見を正副会長でまとめて整理し、次回の会議で示したいと思う。そのように進めてよいかを諮り、委員の了承を得る。以上で、次第3議題（2）和田区の地域課題についてを終了する。

—次第4 事務連絡—

【有坂会長】

次第4 事務連絡について、事務局に説明を求める。

【堀川センター長】

- ・次回会議：3月18日（木）午後6時30分から ラーバンセンター第4研修室
- ・地域協議会活動報告会：3月4日（木）午後6時30分から ラーバンセンター第4研修室
- ・当日配布資料
 - ・和田区地域協議会だより第44号（1月25日発行）
 - ・地域活動フォーラムのご案内
 - ・上越市創造行政研究所からのお知らせ、ニュースレター（48号）
 - ・ウィズじょうえつからのおたより
 - ・上越妙高駅かいわいでひな祭りチラシ

最後に、了承いただきたいことが1点ある。次第3議題（1）で審議した資料

No.1の3ページを確認してほしい。3ページ(2)審査基準の(ウ)に「審査項目に基づく審査」について記載してある。資料では「事業ごとの点数を算出します。」で文章が終わっているが、この後に資料No.2の②の「共通審査の得点が満点の半数に満たない場合は、不採択とする」旨の文章を付け加えたいと思う。理由としては、市民や団体が何を見て応募してくるかという、この資料No.1を見て応募してくる。そこにあらかじめ、こういった場合は不採択になるということをお知らせしておかないと、後になって聞いていないという話になる。この件に関しては、あらかじめ募集要項にもその旨を付け加えたいと思う。

【有坂会長】

今説明があった追加の箇所を含めて、今日決定した案で令和3年度は募集をしたいと思う。

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 南部まちづくりセンター

TEL : 025-522-8831 (直通)

E-mail : nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。